

貨物会社を糾弾する

速報

NRU 国労せんだい

3月23日、JR貨物会社は2007年度新賃金要求について、ベアゼロの回答を行った。この回答を受けて国労は組合員・家族の期待を裏切った貨物会社に対し、満身の怒りを込めて抗議すると共に、再回答を求める抗議集会を各地で開催した。

仙台・福島で抗議集会

再検討・再回答を

地方本部は貨物会社に対し「ベア・ゼロ」回答を求め「再検討・再回答」を求める抗議行動を指示し、各地で抗議集会を開催した。

この間、貨物組合員は三大要求署名の取組みを始めとして、FAX送付、門前チラシ、組合旗掲揚、現場長交渉など、中央での本部交渉の後押しとして、様々な取組みを展開してきた。このような闘いによって「55歳以上社員への1,300円賃金改善」「諸手当改善」「巡回旅費支給額改善」「契約・臨時社員への社員並み昇給率」などの回答を引き出したものの、JR貨物会社に働く組合員

ベア・ゼロ回答は許さない

NO. 2492
2007年3月30日
発行責任者 太田 博二
編集責任者 武田 昌仙

には今回で8年間ベア・ゼロであり、各種減税の廃止や見直し、教育・医療費の負担増など、実質賃金が低下し続けている状況の中でこの回答は、到底受け入れられるものではなく、満身の怒りをもって抗議をするものである。

宮城地区集会から

宮城地区集会には50名の組合員が結集し、地本大沼書記長の挨拶を受けた後、貨物協議会木村議長より交渉経過が報告された。その中では連日回答を引き延ばされたあげくの「ゼロ」回答であり、会社の不誠実な対応と態度が明らかになった。また宮城県支部と仙総支部から激励の決意表明がなされ、秋山宮城県支部委員長はから



交渉経過を報告する木村議長

は「東日本では900円のベア。しかし本場にこれの良いのか。年休を15日流し、5連夜の勤務をせざるを得ない組合員がいる」と、東日本会社の高利益の背景には身を粉にして働いている組合員が存在している実態が明らかになった。

いつまでこの集いをしなければならぬのか、貨物宮城分会を代表して岩井書記長からは「旅客の仲間の暖かい応援に感謝したい。同時にいつまでこのような集会を開催しなければならぬのか。良い報告が出来るように今後とも地道に運動を取り組むしかない」と決意を述べた。